

令和7年度

全国学力・学習状況調査

－ 調査結果 と 指導改善のポイント －

小学校理科

- 1 はじめに
- 2 調査結果の概要
- 3 成果が見られた設問
- 4 課題が見られた設問
- 5 指導改善のポイント
- 6 おわりに

1 はじめに

佐賀県教育委員会では、児童生徒の学習状況を把握・分析し、児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てることを目的に、佐賀県小・中学校学習状況調査を行っています。

また、全国学力・学習状況調査の結果と一体的に分析することで、各学校における学力向上に向けた検証改善サイクルの確立につなげています。

令和7年度
学校における
学力向上の
検証改善サイクル

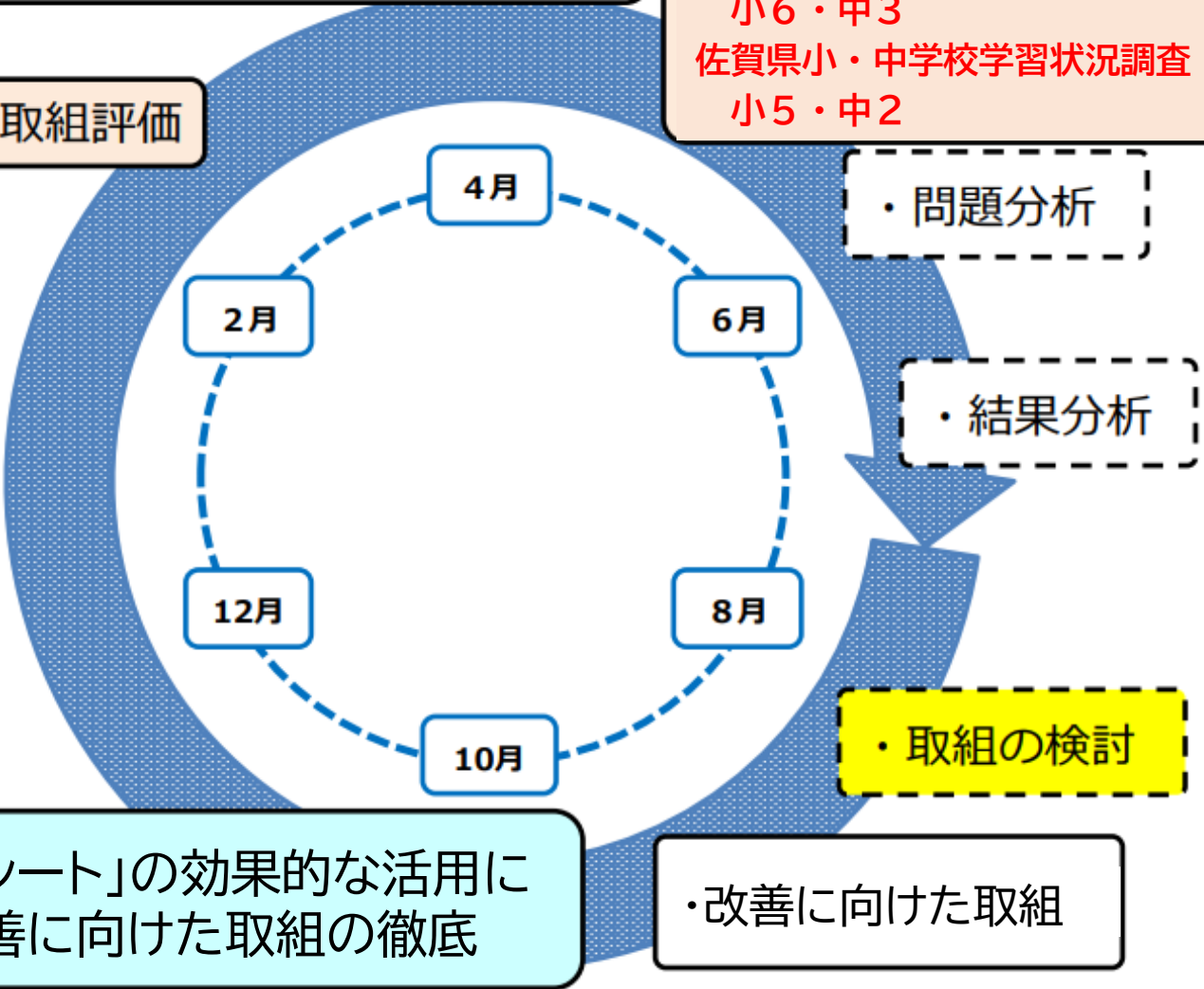
○1年間の大きな
サイクルの中で、
個々の取組に関
する小さな検証
改善を行う

検証改善サイクルを
確立・機能させるこ
とにより、児童生徒
の学力向上を図りま
しょう。

・課題解決に向けた取組の共通認識、
円滑な取組のスタート(評価シート)

【令和7年4月17日】
全国学力・学習状況調査
小6・中3
佐賀県小・中学校学習状況調査
小5・中2

取組評価



○「評価シート」の効果的な活用による改善に向けた取組の徹底

・改善に向けた取組

2 調査結果の概要

全国学力・学習状況調査（全国調査）

《教科全体》

小6理科

年度	県 平均正答率	全国 平均正答率
R7	55 %	57.1 %
R4	62 %	63.3 %

※全国調査の教科全体の県平均正答率は、文部科学省から整数値で提供されています。

R7の県平均正答率は、R4に引き続き、全国平均正答率を下回った。

全国学力・学習状況調査（全国調査）

《観点別》

知識・技能

小6理科

年度	県 平均正答率	全国 平均正答率
R7	53.6 %	55.3 %
R4	60.3 %	62.5 %

全国平均正答率との差
(県平均正答率－全国平均正答率)

-1.7

-2.2

R7の県平均正答率は、全国平均正答率を 1.7 ポイント下回った。
しかし、R4と比べると、全国平均正答率との差が小さくなった。

全国学力・学習状況調査（全国調査）

《観点別》

思考・判断・表現

小6理科

年度	県 平均正答率	全国 平均正答率
R7	56.0 %	58.7 %
R4	62.4 %	63.7 %

全国平均正答率との差
(県平均正答率－全国平均正答率)

-2.7

-1.3

R7の県平均正答率は、全国平均正答率を 2.7 ポイント下回った。
また、R4と比べると、全国平均正答率との差が大きくなった。

全国学力・学習状況調査（全国調査）

《領域別》

小6理科

区分・領域		年度	県平均正答率	全国平均正答率
A 区分	エネルギー	R 7	47.0 %	46.7 %
		R 4	51.0 %	51.6 %
	粒子	R 7	48.2 %	51.4 %
		R 4	58.1 %	60.4 %
B 区分	生命	R 7	49.5 %	52.0 %
		R 4	73.8 %	75.0 %
	地球	R 7	63.5 %	66.7 %
		R 4	62.6 %	64.6 %

全国平均正答率との差
(県平均正答率－全国平均正答率)

+0.3

-0.6

-3.2

-2.3

-2.5

-1.2

-3.2

-2.0

R7の県平均正答率は、「エネルギー」を柱とする領域で全国平均正答率を上回った。
また、R4と比べると、「エネルギー」を柱とする領域で改善が見られた。

令和4年度の調査結果と比べると、以下の点において、改善が見られた。

- 観点別の県平均正答率 「知識・技能」
- 領域別の県平均正答率 「エネルギー」を柱とする領域

3 成果が見られた設問

- ◇電流がつくる磁力について、電磁石の強さは巻数によって変わることの知識が身に付いているかどうかをみる。
- ◇乾電池のつなぎ方について、直列つなぎに関する知識が身に付いているかどうかをみる。
- ◇ヘチマの花のつくりや受粉についての知識が身に付いているかどうかをみる。

4 課題が見られた設問

- ◆顕微鏡を操作し、適切な像にするための技能が身に付いているかどうかをみる。
- ◆水の蒸発や結露について、温度によって水の状態が変化するという知識を基に、概念的に理解しているかどうかをみる。
- ◆水が氷に変わる温度を根拠に、オホーツク海の氷の面積が減少した理由を予想し、表現することができるかどうかをみる。

5 指導改善のポイント

顕微鏡を操作し、適切な像にするための技能を身に付けることができるようにするためには、次のような指導改善を行うことが大切です。

- 操作方法や手順をただ覚えるだけではなく、「像が視野の中心にない」「ピントが合っていない」など様々な状態を想定し、実際に操作しながら適切な像にする方法を確認する学習活動を設定する。
- 限られた台数の中でも、観察対象物を複数にするなどし、一人一人が実際に操作できるようにする。また、理科室などに顕微鏡コーナーを設置し、安全を確保した上で、日常的に観察できる環境をつくる。

自然の事物・現象について、事実に基づき概念的に理解できるようにするためには、次のような指導改善を行うことが大切です。

- 単元の終末などに、習得した知識を活用し、学習した内容を他の学習や生活と関連付けて捉え直すことができるようにする。その際、学習した内容に関わる生活における自然の事物・現象について、1人1台端末で撮影した写真や動画を全体で共有したり、習得した知識と関連付けて言葉や図で説明したりする学習活動を設定する。

学習した内容や児童の生活体験などを基に根拠のある予想や仮説を発想して、思考し判断することができるようにするためには、次のような指導改善を行うことが大切です。

- 予想や仮説を発想する際に、学習した内容や生活体験を児童が想起し、自然の事物・現象と関係付けることができるように、「これまで、〇〇と似たようなことを見たことはありませんか？」などと声掛けを行ったり、写真や動画などを提示したりする。さらには、学習した内容のどの部分を使って根拠としたのかなどの問掛けを行う。
- 単元の終末などに、学習した内容と自然の事物・現象との共通点を分類・整理してまとめる学習活動を設定する。

6 おわりに

まずは、以下の点において指導改善を図りましょう。

- ◆観察、実験において扱う器具や機器などの適切な操作について理解するとともに、操作する体験を通して技能を身に付けることができるようにする。
- ◆問題解決を通して習得した事実的な知識を活用して、学習の成果を日常生活との関わりの中で概念的に捉え直すことができるようにする。
- ◆学習した内容や児童の生活体験などを基に根拠のある予想や仮説を発想して、思考し判断することができるようにする。

佐賀県
教育センター

サイト内検索

検索ワードを入力してください

各種研修

受講のための情報

受講者へのお願い

オンデマンド受講者専用ページ

駐車場の利用について

申込等各種手続

授業に役立つコンテンツ

授業に役立つ実践研究

学習評価の進め方

SAGAせ〜る指導案

学習状況調査

授業に役立つ実践研究

プロジェクト研究			
校種	教科・領域	研究主題	
● 中学校	各教科	【中学校音楽】	中学校音楽科における「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の推進
		【中学校美術】	中学校美術科における「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の推進
個別実践研究（教育センター所員がチームを組んで取り組んだ研究）			
● 小学校	各教科・領域等	基礎期の教員の指導力向上に役立つコンテンツの開発 国語科、社会科、算数科、理科、図画工作科、外国語科、学校保健	
● 中学校		基礎期の教員の指導力向上に役立つコンテンツの開発 国語科、社会科、理科、技術・家庭科（家庭分野）、道徳科	
● 小・中学校	各教科・領域等	個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図るためのコンテンツの開発	

理科

・単元デザイン FIRST STEPを活用した学習指導案
ー第4学年「雨水のゆくえと地面の様子」ー

・ワークシート
ー第4学年「雨水のゆくえと地面の様子」ー

・授業デザイン FIRST STEP Vol.1
ー「問題解決」の過程に沿った発問、言葉掛け編ー
(観察・実験の前)

・授業デザイン FIRST STEP Vol.2
ー「問題解決」の過程に沿った発問、言葉掛け編ー
(観察・実験の後)

単元デザイン FIRST STEP ー小学校理科ー

1 単元デザインは何のため？

- 学習指導要領では、資質・能力を育成するため、単元や題材などの内容や時間のまとまりの中で「主体的・対話的で深い学び」を実現することが大切だと示されています。
- 「指導と評価の一体化」の観点から、単元（複数単元）の指導と評価の計画を作成することが求められています。
- 教師が児童に身に付けさせたい資質・能力を明確にし、意図的・計画的に授業づくりを行うことができます。
- 児童が見通しをもって主体的に学習に取り組むことができます。

2 単元デザインの手順

Step 1 単元を通して児童に身に付けさせたい資質・能力を明確にし、単元の目標を考えます。

Step 2 単元を通して資質・能力を身に付けさせるために、児童が働かせる理科の見方・考え方を明確にし、どのような観察・実験を行うのかを考えます。

Step 3 「問題解決の過程」を踏まえ、単元の指導と評価の計画を作成します。

小学校理科では、「問題解決の過程」を大切にしています。この過程において、指導の改善を図り、資質・能力を育成していくことが重要です。

自然の事物・現象 ・自分から自然の事物・現象に働きかける

日々の授業づくりや授業改善に役立つコンテンツ、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図るためのコンテンツ、指導と評価の一体化を図るためのコンテンツなど、今すぐ使えるコンテンツが満載です。

